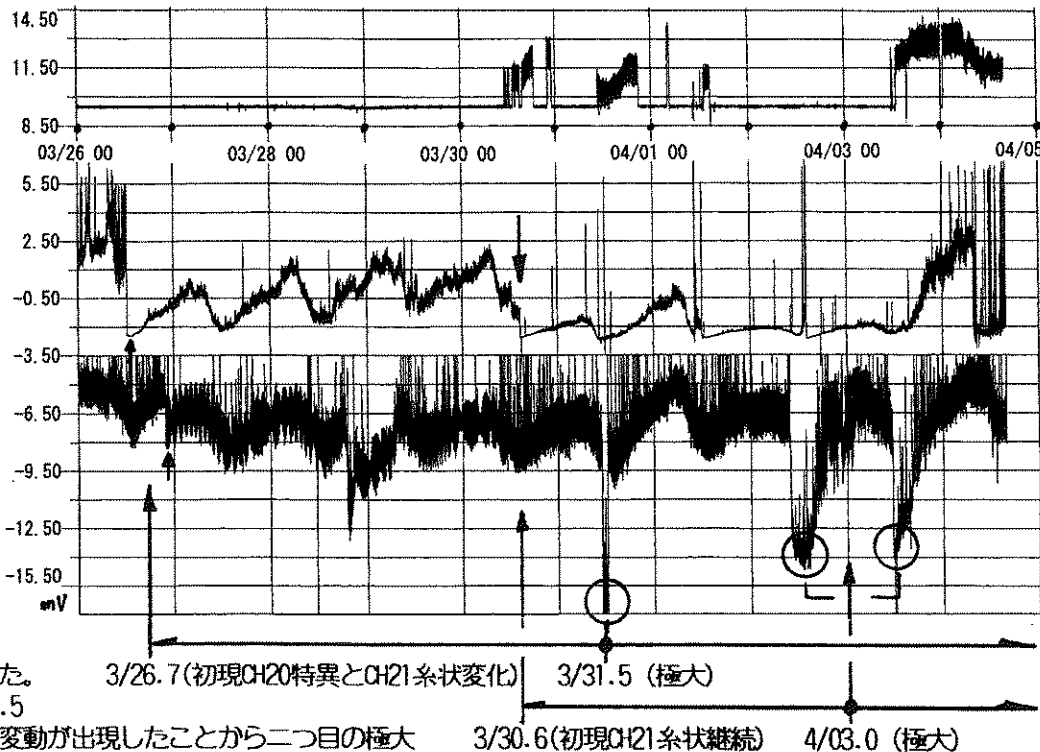


原稿校了後の前兆変化について

八ヶ岳南麓天文台 Yatsugatake South Base Observatory 山梨県北杜市大泉町谷戸8697-1 研究室 FAX 0551-38-4254
Astronomical Observatory: SINCE 1985 Earthquake Forecast Observation & Research: SINCE 1995

No.1778 長期継続特殊前兆 続報 4月9日を示す動向に変化無し

No.1778第14行-7前兆とNo.2710前兆が示した3/25±に対し、極大ではなく、3/26が初現となる両前兆の共通前兆が次行-7として出現しています。前兆群が示した時期に次行-7の極大ではなく、初現が出現した例は、当該No.1778前兆では第1行-7で出現した一回のみ。極大認識は右波形一番下のCH20の基線電圧値顕著低下です。前情報では、3/31.5と4/2.6を極大認識致しました。しかし、その後、4/3.5にも電圧値顕著低下変動が出現したことから二つ目の極大はサイボ-7型極大で、極大は二つの変動の中心である4/03.0と認識されます。初現~極大 $T_{\text{fap}}:T_{\text{map}}=20:13$ 経験則から、



CH17
4/3昼より
正常基線

CH21
4/3昼より
系状脱出

CH20
3/30 夜ゆ
特異終息
ほぼ静穏
(その後はヒ-7のみ)

4/4 16時
迄の行-7

初現日 極大日 推定発生日 (T_{pp} 静穏期突入日)
●3/26.7 -3/31.5 → 4/9.4± (2.3日 4/7.1±)
●3/30.6 -4/03.0 → 4/9.3± (1.6日 4/7.8±)

が計算出来ます。両極大共に同じ4月9日を示すことが計算されました。また4月9日発生と仮定した場合の静穏期突入時期は、 $T_{\text{fap}}:T_{\text{pp}}=6:1$ 経験則より上記()内が計算されます。前兆群が示す日が地震発生ではなく、次行-7の極大が出現し発生が先となる場合は、極大に先行して新たな継続前兆初現が認められます。今回の様に示された日に極大ではなく次行-7前

兆の初現が出現する場合は、示された日より前に新たな前兆が無いと判断が難しいこととなりますが、No.1778の第1行-7終わりと同じく今回もそうである様に、計算された静穏期突入日を過ぎても前兆が継続することで、示された日が地震発生日ではないことが判断できます。本日現在段階迄に新たな前兆出現は認められないため、現状の示す4月9日に極大が出現する可能性は考えにくいこととなります。従って、4月9日が対応地震発生日であるが次行-7前兆の初現出現である可能性となります。

4月7日深夜前兆終息した場合=4月9日が推定発生日

全体傾向からはNo.1778前兆と、別形態のNo.2710前兆が出現し、更に両前兆共通前兆として現在の行-7があることから、現在が

最終段階である可能性は十分考えられます。しかし、特殊前兆であるため、誤差を考慮しても4月8日段階で確実に前兆が完全終息していることを確認必要。
※本日現在の前兆出現状況は
CH17=正常基線記録中。
CH20=4/3-7出現後は正常
CH21=特異状態継続
A1=基線幅増大徐々に減少中と、弱いA1-BTとCH21特異のみとなっています。次は4月8日段階で前兆継続が終息かの報告予定ですが、その前に変化がありましたら続報させて戴きます。



◆推定領域：左図太線内領域=大枠推定
斜線領域=可能性考え易い領域
ダブル斜線領域=参考推定領域

◆推定規模：M7.8 ± 0.5

◆推定時期：4月9日 (最大誤差 4/9 or 4/10)

※但し4月9日が地震発生日である場合は4月7日夜に前兆終息が条件。4月8日前兆継続の場合は4月9日±から次前兆の初現出現の可能性有再考。
※本推定内容と異なる見解が得られた場合は修正。
◇推定発生時刻：午前9時±1時間 (※BTの変化)
(又は午後6時±3時間) (時刻帯より)
◇推定地震種：震源浅い陸域地殻地震